

邑(むら)の映画会実行委員会は、群馬県の「映像教育」の発展を目指し、世界で製作された多様な映画作品の上映やワークショップ活動を行っています。この会を通して、子どもも大人も夢をふくらませ、映像文化によって心豊かな感性が育まれることを願っています。

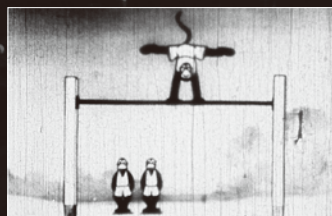
こども映画館

KIDS * CINEMA

Fシネマ・プロジェクト 《こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション!》

この企画はフィルムの上映環境を確保するための「Fシネマ・プロジェクト」の一環として、コミュニティシネマセンターの会員館を中心に全国で実施するものです。

主催 □ MuRA cinema association 邑の映画会実行委員会 / 一般社団法人 コミュニティシネマセンター / 国立映画アーカイブ 特別協賛 □ 木下グループ



体育デー

1932年/日本/9分/35mm/白黒
監督:村田安司

今日は、どうぶつたちのスポーツまつり。どうぶつえんのどうぶつたちがあつまって、さあ、はじまりはじまり。さいしょはサルのでつぼうだ。じょうずにでてもしつぱいしても、手足バタバタ、ハクシュカッサイ!ライオンとトラのけんどう、シロクマやカバのとびこみは見ものだよ。ハラハラドキドキ、みんなもいっしょにおうえんしてね。アニメーションの面白い動きがいっぱい!



こねこのらくがき

1957年/日本/12分/35mm/カラー
監督:数下泰次

かべにえんぴつでウマやカニ、バスやトラック、鳥や馬車などをかくこねこ。きかんしゃと長いせんろをかくと、とつぜんかいた絵が動きます。ぶしぎなえんぴつがほしいねずみとてんやわんやの大さわぎ。子どもはらくがきが大好きだ。こんなえんぴつあったらいいね。邑の映画会を始めたころから上映したいとねがっていた、子どもも大人もいっしょに楽しめるアニメーション。楽しい動きがいっぱい! ©東映



もりのおんがくたい

1960年/日本/14分/35mm/カラー
監督:神保まつえ

農夫においだされたろばは、仕事をやめて町へと向かう。とちゅうでであつたいぬ、ねこ、にわとりといっしょに歩くうち、大どろぼうの家へとたどり着く。4匹は協力してどろぼうたちをおどろかせようと考える。グリム童話の話を人形アニメーションにしました。一つ一つに作られた人形を、思い切ったテンポを早め、コミカルに動かしています。あたたかな動きがいっぱい! ©Gakken



人魚

1964年/日本/8分/35mm/カラー
監督:手塚治虫

遠い国の空想することが好きな少年のお話。でもその国では空想することは許されていなかった。ある日少年は砂浜で魚に出会う。水にはなすとも魚は美しい人魚に姿を変えた。少年は、人魚と空想の世界で遊ぶ。波、風、水、泡、光、...を描いて動かしてイメージの世界を表現する。監督はアニメーションは「物の動きを追求する芸術」という。生きているエネルギーを感じさせる動きがいっぱい! ©手塚プロ



ちいさな星の王子さま

2002年/フランス/7分/ブルーレイ/カラー
監督:ゾヤトロフィモヴァ

とても小さな星に住む、とてもちいさな王子さま。王子さまはきれいです。今日もあさからバタバタ、サッサとおそうじします。空を見ると、あら、たいへん!おひさまがよこれてます。王子さまはおひさまをきれいにしようとして、ブラシでゴシゴシこすたり、あれやこれやと考えていっしょうけんめいおそうじします。手がき(紙)のアニメーション。ユーモラスな動きがいっぱい!

©Folimage Studio 提供:オフィスH



お坊さんと魚

1994年/フランス/7分/ブルーレイ/カラー
監督:マイケル・デュクドゥ・ヴィット

一匹の魚を見つけた修道院のお坊さん。釣り竿や網などいろいろ道具を持ってきて、捕まえようとするがなかなか捕まらない。来る日も来る日も昼も夜も魚を追って、お坊さんはいったいどうなるの? 強いタッチで描かれた絵は、余分なものを捨てて見事なまでに美しい。邑の映画会さけるの念願の上映だ。アルカンジェロ・コレリリの「ラ・フォリア」の旋律によって、コミカルな動きがいっぱい!

©1994 FOLIMAGE



魔法使いのおじいさん

1979年/インド/88分/35mm/カラー
監督:G・アラヴィンダン

「映画とは、こんなにも楽しく、すばらしいものだったのか」とため息をつくほどです。動植物が豊かなインドの南の村に、不思議なおじいさんがあらわれた。子どもたちは遊んでいるうちに、おじいさんから魔法をかけられてしまう。大人も子どももいっしょに映画を見たい、そう願っている「邑の映画会」がインドから直接、上映の許諾をもらいました。映画ファンには今も「幻の映画」として語り継がれている傑作です。

©GENERAL PICTURES
プリント提供:国立映画アーカイブ



FOUJITA

2015年/日仏合作/124分/DCP上映/PG-12
監督:小栗康平

1920年代、藤田嗣治は「乳白色の肌」で裸婦像を描いて、パリで大人気を博した。浮世絵のように平滑で、うつくしい線描は、それまでの西洋絵画にはなかったものだ。油画の本場で、明治生まれの日本人フジタはどう闘ったのか。そのフジタは、戦時の日本に帰って「戦争協力画」を数多く描いた。才能あるかゆえに抱えた成功と矛盾。伝記ではなく、今の私たちにフジタなるものを引き付けて描く。オダギリジョー主演。

©フジタ製作委員会
*PG12:12歳未満の方は保護者の助言・指導が必要。

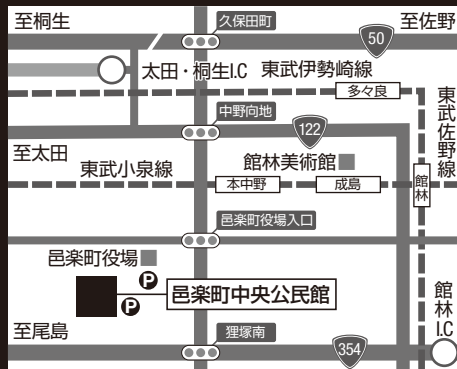
講演:第二期に入った「邑の映画会」

「眠る男」のあと、群馬では「映像教育」なるものが模索されました。学校で映画や映像を学ぶことはありませんでしたが、子どもたちは無防備なままに商業主義にさらされたままでした。何とかしようと動き始めたのですが、公教育の場でこの課題はなかなか認知されず、立ち消えになってしまいました。それを引き継いだのがこの「邑の映画会」です。邑楽町に新しいホールが出来たことによって、これまでの子どもたちの運営による体育館上映に一区切りがつけました。しかし、映画を取り巻く環境は以前に増して悪化しています。二期目に入った十一回目に、あらためて考えなくてはならないことはたくさんあります。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平

プロフィール

1945年前橋市生まれ。早稲田大学第二文学部演劇専修卒。81年の監督第一回作品「泥の河」はモスクワ映画祭銀賞、米アカデミー賞外国語映画賞ノミネートなど高い評価を受け、以後、84年「伽椰子のために」(仏ジョルジュ・サドゥール賞)、90年「死の棘」(カンヌ映画祭グランプリ・カンヌ1990/国際批評家連盟賞)、96年の群馬県人口200万人記念映画「眠る男」(モントリオール映画祭審査委員特別大賞)、2005年「埋もれ木」(カンヌ映画祭特別上映作品)、2015年には日仏合作映画「FOUJITA」発表。過去五作品がDVD・BOOK「小栗康平コレクション」として「FOUJITA」は別巻としてBlu-rayで、それぞれ駒草出版から発売されている。BOOKには批評家、前田英樹との対談を併載。著書「時間をほどく」(朝日新聞社)「映画を見る眼」(NHK出版)「じっとしている唄」(白水社)などがある。



会場交通案内 東武小泉線本中野駅より徒歩15分。
北関東車道太田・桐生ICより20分。東北道館林ICより20分

主催 □ 邑の映画会実行委員会/邑楽郡邑楽町光善寺275-2 共催 □ 邑楽町教育委員会

協賛 □ 館林西ロータリークラブ/朝日印刷工業(株)/高源寺/恩林寺/加藤医院 賛助会員 □ 「邑の映画会かわらばん」

後援 □ 邑楽町/群馬県/群馬県教育委員会/館林市教育委員会/板倉町教育委員会/明和町教育委員会/千代田町教育委員会/大泉町教育委員会/上毛新聞社

朝日新聞社前橋総局/毎日新聞前橋支局/読売新聞前橋支局/産経新聞前橋支局/東京新聞前橋支局/群馬テレビ/エフエム群馬

公式サイト □ <http://kenokuni.jp/muracinema>